

Ⅶ 2020年度教育企画推進経費による活動成果報告

1. e-ラーニングシステムを使った基礎学力の向上とweb採用テストへの対応

総合経営学部総合経営学科 室谷 心

(1) 取り組みの目的

近年の学科学生の学力・学習意欲の向上に合わせて、e-ラーニングシステムを活用して基礎学力のさらなる向上と一般常識の定着を目指し、さらに採用試験に多いweb型SPIテストへの対応を図る。

(2) 取組の具体的内容

ライズシステムのe-ラーニングシステムを、学科1年生及び3年生全員に用意し、基礎ゼミにおいて基礎学力コース、キャリア形成においてSPIコースを学生に活用する。

e-ラーニングなので、授業では、活用を促すことのみを積極的に行い、実際の学修活動は学生の自習に任せる。利用実績は管理者が定期的にモニターし、学習者並びに担当教員に報告する。

年度の最初と最後に業者テストを行い、効果測定を行う。

(3) 期待される効果

iPadの貸与は2020年度は行わないが、ライズのe-ラーニングシステムはスマホでもパソコンでも利用できるシステムであり、1回5分程度で終わるプログラムなので、学生が隙間時間を利用して学習することが可能である。

企業のwebテスト類似画面でのSPIコースなので、採用試験に対する学生の予行演習になることが期待される。

(4) 活動内容

今年度も、基礎ゼミで松大ドリルのベーシックコースとスタンダードコースを1年生に導入した。基礎学力テストを、1回目5月12日(火)～6月30日(火)、2回目1月5日に行い効果測定を行った。

SPI版は、前期中は2020年度4年生対象とし、後期にはキャリア形成Ⅱの時間を利用して3年生に紹介し利用を促した。

(5) 成果

基礎ゼミ受講者99名中ほとんどの学生が基礎テストに参加した(基礎テスト1(99名)基礎テスト2(97名))。2020年度の学習成果については、今後検討を行う。

2019年度の1年生の学習成果について、IR委員会の下で検討を行い、学内研究誌に発表した。(松本大学教育総合研究、第4号、pp.129-140)。

大部分の学生について松大ドリル利用の前後で成績の上昇がみられた。この結果は学力の高低や第一希望で入学したかどうかなどには依らない結果であった。

また、同論文の内容を、2021年3月6日の教育工学会において報告した(日本教育工学会 2021年春季全国大会講演論文集 pp.341-342)。

2. 防災士の育成

総合経営学部観光ホスピタリティ学科 増尾 均

(1) 取り組みの目的

近年、防災教育に対する社会的関心が高くなっており、災害の防災および減災を図る防災士が注目されている。観光ホスピタリティ学科では、平成29年度から防災士認定資格試験の受験資格を得るための必須科目を置いていたが、来年度から学科の4本柱の1つとして位置づけることとなった。本事業の目的は、受講生の経済的負担を軽減させ、防災士の資格を取得し易い環境をつくり、この資格を生かせる有為な人材

を社会に多く輩出することである。

(2) 取り組みの具体的内容

防災士の資格は社会的に注目され、学生の関心も高いものの、資格取得に係る費用が高額になるため、経済的事情により受講できない学生も少なくない。そこで、これら費用の一部を補助することにより、防災士の各科目を履修する学生を増やし、より多くの防災士の資格取得者を輩出することによって、今まで以上に地域ならびに企業に貢献できる高い能力を持った学生を多く育成したいと考えている。本事業は、様々な見地から観光ホスピタリティ学科の事業として実施するものである。

(3) 期待される効果

防災士の資格は、企業あるいは地域の視点から学ぶことにより、「企業の危機管理」および「地域防災」として位置づけられる。「企業の危機管理」においては、企業の継続計画の立案、災害対応マニュアルを整える等、企業機能の維持・回復に資するものである。また、「地域防災」としては、地域の継続計画の立案、自主防災組織およびボランティア団体内での活動等、住民および社会の維持・回復に資するものである。防災士を一人でも多く輩出することは、企業社会および地域社会における防災力の向上に極めて有効である。

(4) 活動内容

観光ホスピタリティ学科の正規科目として防災に関わる5科目を配置し、日本防災士機構による防災士認定試験の受験資格を得られる体制を整えた。したがって当該5科目を履修し単位を取得した学生は防災士認定試験の受験資格を得て、認定試験を受験することが可能となるが、受験に際しては高額の受験料が発生する。科目履修学生が漏れなく認定試験を受験するか否かは、防災士養成事業の可否を左右するため、防災士認定試験の受験料補助を実施した。

(5) 成果

履修者全員が漏れなく、日本防災士機構による防災士認定試験を受験することができ、当初の目標を達成した。その結果、防災士認定試験を受験した学生のうち約8割が合格し、高い合格率という成果につながった。

3. 本学科における主要4資格（総合旅行取扱・社会福祉士・社会教育士・防災士）取得強化策の取り組み

総合経営学部観光ホスピタリティ学科 白戸 洋

(1) 取り組みの目的

観光ホスピタリティ学科では、学科開設以来関連する資格取得に取り組んできている。とりわけ総合・国内旅行業務取扱管理者試験、社会福祉士(国家資格)は、基幹資格と位置付け重点的に対策等行ってきた。これに引き続き新しい資格として社会教育士と防災士を加え、取得強化の観点から対策講座の内容を充実させる計画である。この主要4資格は学科の4つのコースにそれぞれ相応するものになっている。

(2) 取り組みの具体的内容

対策講座の内容を充実させるべく、1. 教員の指導法の強化、2. 学生の勉強法の見直しを図る。

1. については、資格対策講座に携わる教員の資質の向上である。全てを資格受験のプロ(予備校など)にお願いするのではなく、なるべく内部の教員が適正な情報を得るための機会に参加して備えるものである。また、一部受験のプロの講師を関与させ普遍的な資格取得体制を構築したいと考える。これまで2年間、試行的に取り組んできたためもう1年継続しての取り組みである(当初より3年計画)。さらに学科の学びの再編により資格が増えたので同じ観点で対処するものである。

2. については学生へのアプローチで、資格取得につながる確実な学習方法、模試や書籍を実験的に行う内容である。この取り組みから一年一年のデータを構築するものである。

(3) 期待される効果

対策講座の内容を充実させることで期待される効果は、第一次的には学生の資格取得者の合格率を高めることにつながっていくことである。そのことによって、さらに在学期間中の学びのモチベーションを上げる効果を狙う。社会福祉士(国家資格)は、受験が4年後期(1月)に設定されているため、社会福祉士(国家

資格)は、合格率を高めることで学生の専門職としての活躍の機会の拡大につなげる効果が期待できる。また、教員(新任教員含)の指導法への影響として、資格取得を意識した講義の検討につながる効果を期待したい。

(4) 活動内容

1. 教員の指導法の強化
 - ・社会福祉士の指導法に関する図書(DVD)の購入
 - ・観光地理に関する図書(DVD)の購入
2. 学生の勉強法の見直し
 - ・社会福祉士模試の実施
 - ・社会福祉士試験問題集の購入
 - ・社会福祉士DVD講座の購入

(5) 成果

1) 遠隔講義の質の向上

新型コロナウイルス感染症感染予防のために遠隔講義等が2020年度から開始されたことを踏まえ、視覚に訴えるDVDを活用するために必要な図書を購入した。遠隔講義において学生の学習効果を確保することができた。

2) 最新の情報を活かした講義の実施

コロナ禍などによって社会の大きな変化を踏まえた最新の講義を実施するために必要な図書等を購入した。特に観光分野については実際に現地に学生がフィールドワーク等で踏査ができないことから視覚教材等を通じて観光地について理解を深めることができた。

3) 合格実績等

2020年度の合格実績についてはコロナ禍による環境変化等もあって十分な結果をえられなかった。しかし2021年度に向けて各資格について早期から指導を行ったほか、特に1年次生への啓発や再挑戦等を促したこともあり受験者数が増加する予定である。

2020年度実績

* 社会福祉士(2021年1月)

受験者数：8名、合格者数：1名(合格率12.5%、全国平均合格率：29.3%)

* 総合旅行業務取扱管理者(2020年10月)

受験者数：3名、合格者数：1名(合格率33.3%、全国平均合格率：40.7%)

* 国内旅行業務取扱管理者(2020年9月)

受験者数：7名、合格者数：2名(合格率11.7%、全国平均合格率：37.9%)

* 防災士(観光ホスピタリティ学科学生)

受験者数：35名、合格者数：26名(合格率74.3%)

* 社会教育士

今年度2年生が4年時に資格取得予定のため、今年度取得者はなし。

4. 管理栄養士国家試験受験支援

人間健康学部健康栄養学科 弘田 量二

(1) 取り組みの目的

本学では、開学以来管理栄養士国家試験合格率が全国平均を毎年下回り、全国の合格率ランキングでも下位に甘んじている。この状況を改善し、より多くの健康栄養学科の学生を管理栄養士国家試験に合格させることが目的である。

(2) 取り組みの具体的内容

管理栄養士国家試験の合格を目指すには、一定間隔で全国模試を受験して、その成績から自分の全国的な成績順位や偏差値、またその経時変化を把握し、それを平素の試験対策の学びに活かす必要がある。し

かし、全国模試は団体受験等の値引きを利用しても、1回あたりおよそ4,000円前後で学生にとっては高額であるため、任意受験にすると経済的事情で受験しない学生も少なからずいる。

11期生については医歯薬研修協会実施の模擬試験を5回、SGS実施の模擬試験を1回受験させることを11期生国家試験ワーキンググループ会議で決定したが、そのうちSGS分を大学からの補助を受け実施することで、学生の経済的負担を軽減し、大学での学びや国家試験対策の勉強に専念してもらう。SGSの模試を受けると管理栄養士国家試験対策授業の動画をオンデマンドで見ることができる特典がある。

これまでの学生の受験勉強の傾向として、国家試験対策に自律して取り組めない学生もおり、その多くは不合格となってきた。今回の取り組みでは、模擬試験結果を毎回保護者へ送付することで、より早期から子息の模擬試験成績や学習状況を把握してもらい、自宅での自主学習時間の増加を促す。

大学側には、これまでの全国模試の成績、GPAならびに国家試験の可否に関するデータが蓄積されている。このデータを基に成績管理を行い、国家試験合格が厳しいと思われる学生により早期から重点的にフォローを行うなどの対策を行う。

2020年度の国試の分析結果や問題の傾向と対策についての情報を得るために、例年GW空けに行われる医歯薬研修協会のガイダンスに出席するための旅費を申請する。また、12期生に関しては、例年3年次1月にトライアル模擬試験を受験し、総合栄養学演習IIの成績判定に使用しているため、この費用についても併せて補助いただきたく申請した。

(3) 期待される効果

国家試験受験希望者全員で同じ模擬試験を受験することで、一人の取りこぼしもなく定期的な模擬試験の成績やその推移を活用したフォローを行うことができる。また、毎回模擬試験結果を保護者に送付することで、家庭においても国家試験について意識付けを行うことができる。それらの結果としてより多くの国家試験合格者を出すことが期待できる。

(4) 活動内容

業者外部模擬試験 SGS 1回(教育企画費用)

医歯薬出版模擬試験 4回(自費受験)

業者模擬試験後の保護者、学生本人への試験結果郵送

総合栄養学演習(国試受験対策講座) 4年前期15回 後期15回

業者模擬試験後の成績別面談

などを行った。

(5) 成果

第35回管理栄養士国家試験

受験者 67名

合格者 58名

合格率 86.6%

コロナ禍における学習の遅れや業者模擬試験結果が向上しないなど、厳しい結果が予想されたが、最終的にはほぼ例年並みの合格率となり安堵している。

近年の国試正解は厚生労働省の正式発表に至るまで迷うことが多く、大手業者の解答速報において、6題正答に相違があった。このため、解答速報による自己採点で、合格ラインギリギリの得点(120点代前半)では、不合格になる可能性が懸念され、現に、涙をのんだ学生も散見された。資格試験では1点足りなくても不合格になる。したがって、安全圏である130点以上を目指すことが望まれる。

そのためには、5者択一のマークシートでは、選んではいけない選択肢を消去し正答率を上げる戦略が重要で、不得意な科目においても、得点率を55%以上に上げていくことがカギとなると考える。

11期国試ワーキンググループは解散となるが、次のワーキンググループと情報を共有しさらなる合格率向上を陰ながら応援したい。

5. 大学入門ゼミナールでの学習手法の習得と学習時間の獲得

人間健康学部スポーツ健康学科 根本 賢一

(1) 取り組みの目的

大学入門ゼミナールは、大学における初年時教育として、自ら学ぶ学習習慣を身につけ、学習時間を確保することを目的の1つとしている。それらを実践するための教材を活用することで効果的に行うことができると思う。

(2) 取り組みの具体的内容

大学入門ゼミナールは、高校教育から大学教育へ移行していく上での導入部分を担っている重要な科目である。学生と教員のコンタクト促進と能動的な学習手法、学習時間の確保の重要性等について実践をもって身につけていくための授業展開を行う。その上で、効果的な教材を活用することで、教員の負担の軽減、学年における共通化を図ることができる。また、基礎的知識を身につけていくことで就職試験対策につなげていくことが可能である。

1) 講義外学習

- ①学生が家庭学習で自ら学ぶ習慣を身につける。

2) 講義内

- ①大学の授業内で、教員と学生が知識の修得状況を確認し、双方のコンタクトの場とする。
- ②学生間で教え、学びあう機会とし、受動的な講義形態をとらない。
- ③試験を実施し、自己の修得状況の評価につなげ、学習姿勢を考えさせる。

3) 期待される効果

- ①大学で学ぶ基礎を身につけることで、学習態度に反映することができる。
- ②学力不足対策、友達づくりの支援、大学生活への適応に効果的であり、退学防止につながる。
- ③最終的には学力が向上し、就職試験対策に役立つことが期待される。

4) 活動内容

大学入門ゼミナールにおいて、大学での学び方(大学での講義・試験、レポート作成、図書館利用、文献検索など)に加え、数学と国語の2科目であるがテキストを用いての学習時間を設けた(この2科目については、定例の学科会議で検討して絞ったものである)。テキストの内容は極めて初歩的なものを用いたが、1年生を担当した各ゼミナール教員からは、難易度は概ね丁度良いという反応であった。テキストの基本的な使用は、学生達が各セクションの課題に事前に取り組み、講義時間に課題発表、解説を行っていくというスタイルである。今年度はオンライン授業となったことから、手元にテキストを持ち、教員側は同テキストに沿って解説を進めた。解答を教員側から一方的に伝えるのではなく、学生からの発言、質問も自由できるように配慮した。

(5) 成果

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、大学内の授業はマイクロソフト社のTeamsを利用したオンラインでのスタートとなった。授業が開始された5月当初は、学生だけでなく授業を運営する教員側にも戸惑いがみられたが、回数を重ねる度に双方がその環境に次第に慣れていった。特に、テキストの課題(例えばレポート)をteamsに提示し、提出された課題についての評価をそれぞれの学生に返却する流れはすぐに構築することができた。また、国語、数学についての疑問が授業後に残った場合には、チャット機能を利用して教員に自由に質問が寄せられるように工夫した。インターネット環境の影響を多少受けることもあったが、テキストを用いての内容は計画通り実行した。

成果という程でないが、レポート(主張と根拠を示す、序論→本論→結論で組み立てる、先行研究を踏まえる、図書館・インターネットを活用しての文献検索、参考文献の記載、提出のマナーなど)の基本的な書き方を踏まえた内容のレポートを全員提出することができた(提出されたレポートは各ゼミナール担当教員が確認後、学生へ返却)。また、国語、数学のテキストで学んだ内容を確認するために、期末に基礎学力判定テストを実施し、自己の修得状況を確認させる機会とすることができ、概ね取り組みの目標は達成できたので

はないかと考えている。ただ、課題も残った。多くの学生は、テキストを授業時以外の自主学習に役立っていたが、学生の中には、スポーツ・健康科学に関する専門分野の学びは能動的に取り組むが、今回実施した国語、数学などの基礎的な内容の学びを軽視する者もいた。しかし、各種の就職試験には、これらの基礎学力は非常に重要であり、何より専門分野を学ぶ上でもこの基礎学力の上に各科目が成り立っている。そのため、ゼミナール担当者を通じて、このことは継続して学生に指導していきたい。

6. オリジナルテキスト作成

松商短期大学部商学科 山添 昌彦

(1) 取り組みの目的

本学短期大学の学生の学力に応じたオリジナルテキストを作成することにより、受講生の知識の定着や読解力、要約力、さらには論理的思考力の向上を図る。

(2) 取り組みの具体的内容

本年度は「マクロ経済学」(A4判、総ページ数82ページ、通し番号014)を作成した。

(3) 期待される効果

本取り組みの目的である「知識の定着や読解力、要約力、さらには論理的思考力の向上」が期待される。

(4) 活動内容

2020年度前期の「マクロ経済学」の授業と並行して本取り組みの原稿を執筆し、授業の参考としてこの原稿を受講者にも配布した。受講者の反応を見ながら加筆・修正等を繰り返し、本学の学生に適したテキストの原稿を9月に印刷業者に提出した。その後、12月に刊行・納品された。

(5) 成果

「マクロ経済学」は図や数式で説明する箇所が多いため、業者との調整を重ねながら学生に分かりやすいテキストを作成することができた。また、単に数式だけで説明するのではなく実数を入れて説明することで、より実感のあるテキストにすることができた。